

# 早期修了1年モデル



## 西村 直樹

株式会社リクルートライフスタイル

私は東工大の経営工学専攻にて修士号を取得し、リクルートライフスタイルのデータ解析者になりました。研究分野と業務内容が近いこともあり、就職後も共同研究者と研究を継続していましたが、その中で「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」という最短1年で博士号を取得できる制度について知りました。会社の理解もあり、業務の一部として週1回大学へ行き、輪読ゼ

ミへの参加や指導教員との議論、講義の受講などをしていました。通常業務と並行しての研究活動は大変でしたが、短期間であったからこそ、集中して取り組むことができたと思います。私自身、これまでの取り組みを見つめ直すとても良い機会となりました。皆様の博士（社会工学）への挑戦を応援しています。



## 赤星 健太郎

内閣府都市可視化調整官（国土交通省都市政策課企画専門官）

私は、国際的な仕事の中で博士号取得の必要性を強く感じ、入学を決意しました。まず、大学卒業後20年間で書きためた論文を大まかに整理して、指導教員と相談をすることから始めました。入学後は、先生方から大変親身な指導をいただき刺激的な時間を過ごすことができました。また、学外で指導を受けることも公式に可能なので、仕事が忙しい時期にはとても助かりました。博士号

取得後は、特に海外で一目置かれるようになり、仕事が進めやすくなりました。また、課題を解決する力に加え、自分で課題を立てる力が身についたことで、人生が豊かになったと感じています。社会人でも意志があれば、博士号取得は可能です。皆さんにもおすすめします！



筑波大学大学院 理工情報生命学術院  
システム情報工学研究群

# 社会工学学位プログラム(博士)

<https://www.sk.tsukuba.ac.jp/PPS/>



社会工学学位プログラムでは、「社会現象の演繹的理解（社会システムサイクル）」と「データ解析による帰納的理解（データ解析サイクル）」を基礎とするバイサイクル型教育指標として、5つの教育指標を設けています。



# 標準3年モデル

## 高橋 一樹

株式会社電通



私は、社会工学類を卒業し、そのまま社工の博士前期課程、博士後期課程へと進学しました。世界のビジネスにおける博士号の重要性を指導教員より教わった一方で、当時の日本は、実務とアカデミックが積極的に産学共同で取り組んでいる印象があまりないものの、今後、実務における専門的なスキルに対するニーズが高くなると考え、不安は少しありましたが、博士（社会工学）の取得に専念し、学位取得後は大学に

残らず、企業に入ろうと決めました。結果として、私の研究テーマであるORの手法を基点としたマーケティング・サイエンスと、博士号の価値を高く評価してくれる企業にスムーズに就職でき、今もそのスキルが活かされております。日本の代表として世界で活躍できる人材を目指す選択肢の1つとして、皆様の博士（社会工学）への挑戦を応援しています。



## 雨宮 護

筑波大学システム情報系准教授

私は、“つくばの社工”で学び、博士（社会工学）を取得し、現在“つくばの社工”で教育と研究に携わっています。“つくばの社工”の博士課程の魅力は、学問的、経験的、人間的に多様な先生方や学生と触れ合う機会が豊富にあり、知的な刺激を多く得られること、また先生方の「人を育てる」ことへの意識が極めて高く、学生が研究に没頭し、興味をとことん追求することを全力でサポートする体制があることです。あな

たは、研究への高いモチベーションだけを持って、社工の門を叩いてください。知的な刺激があなたの研究を発展させ、万全のサポートがあなたを支え、あなたのモチベーションを成果に結実させます。研究という、創造的で楽しい営みに、私たちとぜひ一緒に取り組みましょう。あなたの入学をお待ちしています。

## 田口 壮輔

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社



私は、社会工学類を卒業し、そのまま“つくばの社工”の博士前期課程に進学しました。そして、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングの研究員になりました。しかし、シンクタンク研究員として公共政策にかかわる仕事をする中で、博士号の重要性と専門知識・スキルをさらに磨く必要性を痛感し、“つくばの社工”の博士後期課程に戻る決断をしました。もともと私は研究が好きで、研究者になりたいという夢も持っていた

ので、働きながら博士後期課程に通うことは苦にはなりません。無事に博士（社会工学）を取得でき、博士後期課程で学んだ知識とスキルをさらに活かすべく、現在はコンサルティングファームで社会イノベーションを支援する仕事をしています。自分を成長させる意味で、自分の生き方を見つめなおす意味で、皆様の博士（社会工学）への挑戦を応援しています。



## 山本 光代

海上幕僚監部防衛課分析室（当時）

私は、職場からの部外研修として、博士前期課程を履修していましたが、博士号を取得したいという思いから、研修を修了し職務に復帰した後、上司の許可を得て博士後期課程へ進学しました。私的な活動のため、学費は自己負担、学会等へは休暇を取得して参加しました。ゼミは土日に行い、学会や論文審査の時期には、メールでのやり取りに加え、平日の夜に指導を受けていました。また、必要な履修単位の一部は東

京キャンパスで受講しました。勤務しながらの研究活動は大変でしたが、博士前期課程在学中から博士号取得の希望を指導教員に伝え、計画的に学会発表、論文投稿等を行っていたため、3年間で学位取得ができました。大変なこともありますが、得るものも多いので、皆様の博士（社会工学）への挑戦を応援しています。

# 働きながら3～4年モデル